

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26 年 6 月 23 日			
所属学部・研究科	教育学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	シェフィールド大学 (国名:イギリス)			
所属学部・学科等名				
在籍身分	Study Abroad Programme			
留学期間	平成 25 年 9 月 23 日～平成 26 年 6 月 14 日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: Tier 4 (General) student visa			
	ビザ申請先: マニラ英国大使館 (大阪英国ビザセンターに提出)			
	取得方法, 提出書類: まず必要な英語能力を証明するための試験 (TOEFL or IELTS など) を受験して基準を超える。インターネットで申請用紙に記入・印刷し、戸籍謄本・通帳の残高証明書・在学証明書・シェフィールド大学からのビザレター・航空券のコピーなどを揃えて大阪のビザセンターに持って行く。指紋採取・ビザ申請料金を払い、約1週間後に自宅に書類とビザ付のパスポートが届く。(通常1ヶ月ほどかかるが追加料金1万円ほどで1週間になる。)			
	手続きに要した日数: 必要な英語試験で基準を突破してから3ヶ月ほど			
その他必要な事前手続き	奨学金申請やクレジットカード, 国際学生証の取得、パスポート・ビザの取得、寮申し込みから寮の頭金払い込み (国際送金)、オリエンテーション申し込みなど			
出国年月日	平成 25 年 9 月 16 日			
経路	岡山から新幹線で関西空港、ヘルシンキ空港、マンチェスター空港から電車			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	8月に語学研修のサマースクールが1ヶ月あったり、学期が始まる前に2週間ほどオリエンテーションがあったりしましたがけっこうお金がかかるので行かなかった。また全参加型オリエンテーションとは別に様々なイベントも無料で開催されていたので、楽しそうなイベントだけ選んで行った。(チョコレート好きや学校周辺ツアー、BBQ、アーチェリー、近くの有名な山登りなど)			
帰国年月日	平成 26 年 6 月 17 日			
経路	マンチェスター空港、ヘルシンキ空港、関西空港から新幹線で岡山まで			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	171 万	円	
	内訳	渡航費	16 万	円
		保険料	13 万	円
		教科書代(学費)	1 万	円
		宿舍費	79 万	円
		食費	20 万	円

	その他 ( 旅行 費)	35万	円
	( お土産 費)	4万	円
	( 交際 費)	3万	円
<b>3. 授業について</b>			
2013年 秋学期	9月30日	～	2月8日
2014年 春学期	2月10日	～	6月14日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	学部に関係なく興味のある授業がとれます。ただそれぞれのコースの学生が優先なので誰かが登録期間に落とさない限り、空き待ちでとれなかった場合の代替案を考えて時間割も自分で調べて組まなければならない。ディスカッションやエッセイなど自分の考えを重要視される。評価はエッセイかテストが多い。テストも穴埋めなどの暗記ではなく授業で学んだことを鑑みて自分で調べた参考文献をいれながら書く記述式のテストが多い。私の場合三時間に3つのトピックを選んでそれぞれ1000字程度で書かなければならなかった。エッセイも最低2000字-5000字ほど。		
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	予習で課題図書をしっかり読んで授業に望めばあまり困らない。授業で発言できなくても焦らなくていい。それでも何か授業や課題で困ったら教授陣のオフィスアワーに訪れて質問したらとても力になってくれる。恥ずかしがらず、どんな小さなことでも聞いて勉強して行く姿勢が大切だと感じた。		
<b>4. 生活等について</b>			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )		
住居の広さ	約 26㎡	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有 ( 人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ( IH、リビングルーム、オープン )		
住居費	1ヶ月当たり 約400ポンド (現地通貨)	約	8万円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input checked="" type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
留学先での住居全般に関するアドバイス	フラットによっては共有人数に幅がある。最初にゴミ当番や皆のルールを全員で決めた方があとと揉めない。リビングルームの物が何か壊れると壊した人が名乗り出ない限り全員で割り勘しなければならぬので、仲が悪くなる。私は誰かがIHを割ったので7000円ほど払った。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
掛け金は	年間 円	補償額 死亡	円, 入院1日 円

	その他 ( )	
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	軽いけがや風邪なら大学の医療機関で無料で見てくれる。また症状やどこに行ったら良いかわからない場合の何でも相談やカウンセリングも予約すれば無料で受けられる。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	イギリスに冷えピタやカイロはないので持って行けば重宝する。油っぽいものや甘すぎるものが多いので, 自炊をして栄養をとった方がよい。ぶどうやいちごなど果物や野菜が安くお米や日本の調味料も買えるのでぜひ。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
イギリス一安全な街と言われているので図書館に荷物を置いたままでも大丈夫。ただロンドンやパリ、イタリア全体はスリが多いのでアンケートなど頼まれても無視しなければならない。写真撮影もお金を請求されるのでしない方がよい。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
イベントや部活動が幅広く、活発なのでぜひ参加してほしい。私は紅茶サークルに入っているのんびり会話を楽しむことができた。大学が提供してくれる give it go という一日旅行などに週末参加するのも気分転換に良い。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 28年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 27年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 教育実習の時期とかぶったため。)	
現在の状況および今後の予定・進路等	後期から教育実習に行き、教員採用試験を来春受験予定。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	イギリスに日本企業も面接に来てくれる機会もあるので、就職活動に関しても考えてはいる。実習の準備に関してはチューターの先生と連絡を取り合い進めた。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
シロクマのことだけは考えるな!	植木 理恵 (新潮文庫)	心理学の新書で困難への対処法が学べます。準備中、留学中に助けられた本でした。
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
何より現地の人かそこに留学した方に話を伺うのが一番だと思う。目標を明確にしておかないと準備中も留学中も悩むことが多いと思うので、どんな授業をとって留学後どうなりたいかのビジョンを持っておくことは大切だと思う。		

## 学習の概要に関するレポート

まず授業の選び方について触れた後、内容に関して経験したことを書きたいと思います。授業では語学条件さえ満たしていれば学部や学年にとらわれず興味を惹かれた分野の授業を受講することができたので、今まで学んだ専門分野を別の分野の視点から見て新しい発見がたくさん見つかりました。登録期間が1ヶ月ほどあるのでシラバスで興味を持った授業の初回に参加し、授業の概要や教授の雰囲気、授業形式、評価の仕方や単位数を総合的に考えて他の授業との兼ね合いを考えながら時間割を作るのはとても大変であり少しだけ楽しくもありました。元々の専門分野は教育ですがコミュニケーション学や政治学、文学に言語学など教育に関連していながらも今まで学ぶ機会がなかった分野の授業を受講し決められた時間割ではなく‘主体的に学ぶ’という経験ができました。

さて次に内容に関して書きたいと思います。こちらでの学習面で一番苦労したことは授業のセミナーでした。日本の大学の大半の授業が講義形式なのに対し、私の留学先の大学ではセミナー形式が多くの授業で用いられていました。セミナー形式というのは事前に教授が指定していた論文や本を読み、場合によってはさらにその内容に関連した課題がだされ授業時間内に学生が自分の考えを自由に発表し教授がそれぞれの発言に関してコメントをするといった学生主体の形式です。1つの授業に対し100ページを次の週までに読んでいくということが第一の難関でした。その難関を完璧には理解できないものの、なんとかこなして自分なりに考えてから授業に望んでいました。しかし、読むことは大前提であってどんなに時間がかかって辛かったとしても課題をこなし考えたことを発表しなければ意味がありません。授業の最終評価の2-3割は授業内のディスカッションへの貢献度で評価されることが多いです。出席点なんてありません。せっかくの準備を無駄にしまいと意気込むものの、授業で他人の会話を遮って進むような息もつかせぬディスカッションに圧倒されてばかりで発言など到底出来ず、何を言っているのかも最初は分からず途方にくれていました。また一度話をふられても、自分の英語力のなさからくる自信のなさから一斉の真剣なまなざしに耐えられず焦って言いたいことが伝えきれませんでした。しかし留学終盤には自分からはなかなか発言できないものの、他者の考えに対して自分の考えを発言できるようになりました。授業外で準備やエッセイの資料集め、試験勉強などは図書館にこもりっきりでした。というのも図書館は24時間開館していて、書庫の充実はいうまでもなくカフェも完備され階ごとにインテリアが異なりその日の気分好きな場所で勉強できたのもすごくよかったです。

留学前は自分の専門知識をさらに深めるものだと思っていました。しかし実際に留学して気付いたことは一つの分野を学んできたひとでも、異なった分野や異なった環境、異なった人と会話することで自分が勉強したいことがさらに発見できる良い機会だと思いました。



## 生活の概要に関するレポート

シェフィールド大学は全英の大学に対して行われた調査/表彰式典にて、その他多くの屈指の名門大学を抑え、見事全9部門において『全英一位』の大学の称号を獲得しました。まず、友達に勧めたい大学No.1! どんな評判より実際の学生の声が一番信頼できますよね。寮や大学の設備自体も整っていて、ヨーロッパで一番緑の多い街として表彰されています。フットボールが発祥の国だからかあちらこちらの芝生で男の子達がボールを蹴っているのを見かけます。大学に行く途中に自然に癒されたり、リス、野うさぎやガチョウなんか見かけたりてよく和みます。そのような環境もあってかイギリスで一番安全で幸福度の高い街といわれています。特に女性で留学はしたいけど、海外は危ないかもなんて思ってた方におすすめてです。例えば図書館に荷物を置きっぱなしにしたことが何度もありますが(大半の学生が授業以外は図書館で勉強するというスタイルのため昼を過ぎると席がなくなってしまうので席確保のため)盗難にあったことはありません。夜中3時に一人で帰ったこともあります。大学側がセキュリティにもお金をかけていて警備員を配備したり学生証がなければ建物に入れなかったりということのおかげもあると思います。大学から街の中心街も歩いて15分ほどで季節ごとに地域の方が主体の様々なイベントが開かれています。目立った観光場所がない分、イギリス人の日常生活を経験し、とけ込めるかと思えます。図書館は24時間開館していて勉強の環境が整っている一方で、夜には大学のホールをクラブとして提供していて遊びの場もあるまさに学生の要望に全力で応えてくれる大学だなと感じています。サークル活動やイベントも幅広く盛んなので、自分がやりたいことが必ず見つかると思います。私は紅茶サークルに入って週に1回、毎回違った5種類の紅茶と茶菓子をお供にサークルの方とお話ししていました。また寮に住んでいればフィットネスや水泳といった人気のものから、クライミングやスカッシュなど日本ではあまりなじみのない特殊なスポーツも特定の時間無料で楽しめます。寮にはカフェやバー、食堂やコンビニエンスストアのようなものなど完備されているのでとても便利です。ここまで利点ばかり挙げてきましたが、もちろん欠点もあります。

私にとっては天気と寮での生活でした。着いたばかりの9月から春にかけては日が短く昼の3時には暗くなってしまったり雨ばかり降るしで慣れない環境ですっかり気がめいってしまいました。また初めての寮生活ではキッチンが共用で物が紛失したり、誰かが物を壊した場合連帯責任で支払わなければならなかったりとトラブル続きで人間関係に悩まされました。これから留学される皆さんの多くも寮に滞在されることかと思えます。その時は最初に共有する皆で集まってしっかりルールを決めることを強くお勧めします。ばからしく聞こえるかもしれませんが、他人のものは食べない、掃除当番を決める、共有する消耗品(洗剤やゴミ袋など)の費用をどう分担するかがのちのち揉めずに仲良く暮らしていけるかに関わってきます。長くなりましたが、友達との交流も勉強もどちらも思いっきり楽しみたい方に勧めたい大学です。

